

うだちから

「うだちから」とは、宇陀に由来からある
地域コミュニティの力(宇陀力)のことです。
このコーナーでは、市が取り組む
「まちづくり」や NPO 団体などを紹介します。
問 地域振興課 ☎82・3910/IP ☎88・9094



▲さつまいものツル苗

①うたの魅力発見体験ツアー 農業体験 準備作業

農業体験は中止となりましたが、その代わりに菟田野こども園の園児にイモ掘りや黒豆の収穫体験をしてもらいました。園児たちはみんな楽しく収穫していたので、恒例の行事として今年も楽しんでもらおうと、昨年よりも作付け量を多くしました。今後の予定としては、7月初旬に宇陀名産の黒豆を植え付ける準備をすすめています。



▲植え付け作業の様子

今年の農業体験は、10月2日(土)に予定しています。「菟田野の実りの秋」を満喫していただくため、豊かに実った新米・さつまいも・黒豆の収穫体験ができるように、丹精込めて育てていきますので、スタッフ一同心よりお待ちしております。
なお、新型コロナウイルスの影響により、内容や日時の変更等が生じる場合があります。

②「室生公園あざぎりの里」あじさい植樹

地域創造 べんいちこんしんかい

室生寺周辺にある室生公園あざぎりの里ではあじさいが植えられており、初夏の室生の美しい景観に寄与しています。
今年も人と人とのふれあい交流や地域の持続的な活性化を目指して活動しているべんいちこんしんかいと地元有志によるあじさいの植樹を5月29日に行いました。

昨年に引き続き新型コロナウイルスの影響で、あじさい祭のイベントは中止となりましたが、梅雨の晴れ間の中、色々な種類のあじさい約80本(ダンスパーティー、シュガーホワイト、コンペイトウ)などを植樹しました。



▲植樹の後の集合写真

若い世代が集まって活動することで、室生の里の良さをたくさんの人に知ってほしいとの思いで作業を終えました。



▲元気に育ってね

③令和3年度宇陀市まちづくり活動 応援補助金の交付事業が決定

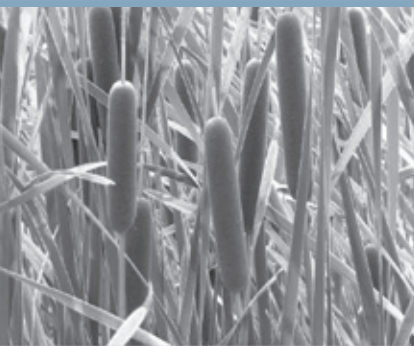
団体名	事業名と活動内容
芳野城を守る会	【芳野城を中核にした地域活性化事業(芳野城夢プラン)】 芳野地域の貴重な史跡である芳野城を整備することで地域住民の連帯意識を高め、観光資源の活用や歴史、史跡学習会などで地域活性化を図る。 登山道や山頂の整備および草刈り、道案内板の設置を行い、歴史学習会や史跡を巡るツアーを開催する。
うだ子ども能楽教室	【うだ子ども能楽教室】 伝統文化の能楽をプロの能楽師から手ほどきを受け、子どもたちの心を豊かにし、能楽を通して正しい礼儀作法を身につける。また、郷土に愛着をもち、日本の伝統文化に関心を持つ子どもを育てる教室とする。
一般社団法人フオリティオブライフ SANKI	【三本松地区まるまマルベリー計画】 休耕地を利用してマルベリー(桑の木)を生産するマルベリー農園をつくる。将来は農園として雇用促進のほか、各種団体と協力し体験を通して子どもたちの農育、食育を目指す。
紀伊半島交流会議 伊勢街道分科会	【地域と創る宇陀の魅力事業】 地域の方々とともに新しい可能性を探ることを目的として、宇陀がもつ豊かな自然や歴史、文化の情報を広く伝える事業に取り組む。まちづくり協議会などと協働して、ウォーキングマップやパンフレットの製作を軸に宇陀の情報を発信し、地域で開催される季節の催しを案内する。
につこり会	【空き家改修の民家を利用した市民による市民の為に市民文化講座】 自分たちに必要な市民講座を自分たちで企画し、参加や講師も務めて様々な講習会や講演会を実施していく。市民の自主性や主体性の高揚、コミュニティの活性化につなげたい。そして、引きこもりがちな老人のいないまちを目指す。
べんいちこんしんかい べんいちこんしんかい	【べんいちこんしんかいによる室生活活性化計画！室生寺のもみじ祭りに於ける【お客様に対するおもてなし】】 室生寺への集客アップと、室生全体の活性化を図る。室生寺もみじ祭り(ライトアップ)の来場者をターゲットに「変化をつけ、もっと賑やかに、お客様に楽しんでいただけるイベントに変えていこう！」という主旨で事業を行う。
ゆたかな宇陀	【大和宇陀ワクワク体験プロジェクト】 宇陀市で実施可能な様々な体験をプログラム化し、体験を求める個人や団体(子どもから大人まで)に情報を提供し、その人々を受け入れる窓口となる。観光に来た人と市民との交流を増やし、観光目的の「交流人口」から地域や地域の人々との多様に関わる「関係人口」へと関係性を深める。そして、関係人口の増加や多拠点生活の橋渡し役を目指す。
三郎岳景観 石仏群保存会	【室生原山にぎわいの拠点づくり事業】 三郎岳山頂付近には、山つつじや山桜が群生し、冬には樹氷が見られ景観が良い。観光振興につなげるため、三郎岳登山道の整備や石楠花の植栽を行う。断崖には数体の石仏が彫られているので、文化遺産の保存、伝承のための石仏群危険個所の看板設置や原山案内パンフレットの整備事業なども行う。
宇陀市の 神話と歴史を 考える会	【宇陀の歴史再発見(縄文時代から古墳時代まで)】 縄文時代から古墳時代にさかのぼり、宇陀で発掘された「石棒・勾玉」などを展示する。また、古墳巡りも開催し、講演を通して古代の宇陀に思いをはせてもらう。



「ガマ」

ガマが因幡の白鬼の伝説で有名なことは誰でも知っています。皮膚を保護するために、ガマの穂綿にくるまるように言ったのです。本当はガマの穂綿というのは、ガマの花粉のこと、蒲黄という止血作用のある生薬のことでした。
ガマの花粉を服用すれば、止血、通経、消炎性利尿剤となり、吐血、下血、子宮出血、血の道、痔出血、産後の腹痛、遺精、尿道炎症のほか、尿の出が悪く皮膚がむくんでいる人に効果があります。鎮咳剤として喘息にも効果があります。

この花粉をフライパンで炒って、切り傷ややけどに散布すれば止血剤となり、痛みがとれ、傷跡も残らず治ります。また、脱肛、痔、鼻血、口内炎、歯ぐきからの出血、湿疹などにも皮膚に散布すると効果があります。
蒲黄をのみ続けると、身を軽くし、氣力を充実させ、寿命を延ばすと言われています。子宮や循環器に作用し、健康な体をつくることにも役立ちます。
ガマの太い新芽を地中から切り取るか、根元の白い所をてんぷらにして食べると、おいしく食べることができます。



▲珍しい形をしていますね！

※当市で「薬草活用講演会」をしていただいた村上光太郎先生の連載より一部抜粋

薬草逍遙(やくそうしやうよう) 毎回「薬草」に関わる内容を連載でお届けするコラムです。

問 商工業課 ☎82・5874 / IP ☎88・9075